

# 長野へ 白馬の「恩返し」

## 14年の地震被災者有志がボランティア



11月22日午前11時40分、長野市赤沼  
廃材を詰めた袋を軽トラに積み込む鎌倉さん(中央)

## 当時振り返り「感謝に堪えない」

### 千曲川氾濫

県北部で最大震度6弱を観測した2014年の神城断層地震で被災した北安曇郡白馬村の有志5人が22日、台風19号で被災した長野市赤沼を訪れ、被災家屋の片付けを手伝った。地震発生後に大勢のボランティアが駆け付けてくれたことから、当時、被害が大きかった同村堀之内区長だった鎌倉宏さん(66)が「恩返しをしたい」と友人らに声を掛けた。

### 市センター通じたボランティア

### 年内は受け入れ終了

鎌倉さんは神城断層地震で自宅が損壊。区長として地元公民館などの復旧作業に追われ、自宅の片付けは親戚やボランティアに任せっきりだったという。「ボランティアの皆さんには感謝に堪えない」と振り返り、今度は台風被災地を支える立場に回った。

鎌倉さんがボランティアで長野市の被災地に入るのは、11月下旬に続き2回目。5人はこの日、ボランティアリーダーの指示で、赤沼地区の集会所の復旧作業を手伝った。1階部分が大人の

背丈ほどまで浸水し、かびが生えた壁や床を工具で剥がして袋に詰めたり、廃材を入れてた袋を軽トラに載せて集積所へ運んだりした。

鎌倉さんに誘われ、初めてボランティア参加したという堀之内地区の柏原武幸さん(77)は、被災から2カ月以上たっても復旧途上の街を目の当たりにし、「家屋や田畑が軒並み被災し、言葉にならない。頑張って復興してほしい」と精いっぱい体を動かしていた。

一方、市災害ボランティア

センターを通じたボランティアが参加。来年1月10日から再アの受け入れは、年末年始の開する予定といい、その後もため、この日でいったん終えた。これまでに県内外の延べ6万4355人(15日時点)が参加。来年1月10日から再開する予定といい、その後も金、土、日曜日にかけての週末型として受け入れを継続する。